



あすぴあ通信

2016. 5
48号

小平でもはじました 「子ども食堂」

「おなかいっぱいごはんが食べたい」
「学校が休みだと給食がなくておなかがすく」
この飽食の世の中で、驚くような子どもたちがささやきはじめています。

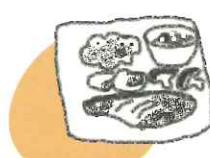
6人に1人の子どもが貧困という数も衝撃ですが、その貧困が、相対的貧困、つまりみんなと同じように暮らしているように見えるのに、みんなと同じようにできないということに深刻さを感じます。

そんな状況を少しでも変えていこうと、子どもたちが安心して食べ、話し、くつろげる、「子ども食堂」をつくる運動が動き出しています。

小平でも、お母さん達のこんな疑問から、「まるちゃんカフェ」が生まれました。

● 地域のおばちゃんがつくる“母めし”

きっかけは自身も子育て中の代表・田丸文香さんの「成長期の子どもたちの食事が心配」という思いからでした。それに幼稚園時代のママ友が賛同し、またその友達も集まって『まるちゃんカフェ』はスタートしました。第1回は昨年12月10日に開催。場所は小平市第一中学校そばの個人宅(仲町)で、空き家になっていた家を大家さんのご好意でお借りすることができました。



この日のメニューはかき揚げうどんといなり寿司。並んだおいなりさんをパチリ



発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

- 1面：小平でもはじました「子ども食堂」
- 2～3面：小平にもやって来た巡回子ども食堂
あすぴあ登録団体の紹介
- 4面：講座予告、本の紹介 ほか

『まるちゃんカフェ』のメンバーにとっても、子どもだけでご飯を食べる、またちゃんとした食事を食べられない子どもがいるという事実は衝撃的でした。「小平市にそんな家庭があるのかしら？」と最初は信じられなかつたメンバーも民生委員やスクールカウンセラーから直接話を聞き、自分たちに何ができるかを話し合いながら回を重ねてきました。

● これからも小平スタイルで！

今では活動を支援したいという輪が広がり、小平市社会福祉協議会やこども食堂ネットワーク(2ページで紹介)から、支援の仲介や食材の提供も受けられるようになりました。また4月20日の第6回では、試みとして上水南公民館でも開催しました。

「みんなで集まって調理することもとても楽しいし、これからも私たちらしく、小平にあったスタイルで続けたい」と話すメンバー。子どもたちからも『まるちゃんカフェ』のごはんは美味しい♪と毎回好評のようです。(M)

※ 開催の日時、場所は案内チラシまたは下記でお知らせしています。

<https://www.facebook.com/maruchancafe/>